港区はどんなまち？

名古屋市の南西部に位置し、市内で最大の面積です。海抜ゼロメートル地帯が広がっており、市内で唯一伊勢湾に面しています。
過去の災害を教訓に、ソフト・ハード両面で防災対策が着実に進められています。

1 伊勢湾台風と港区

［風水害］

伊勢湾台風は、1959（昭和34年）9月26日、紀伊半島に上陸した大型で非常に強力な台風です。伊勢湾を通過する際の風向が南東で、高潮が発生しやすい状況であったため、東海地方を中心に非常に深刻な被害をおよぼしました。

名古屋港の潮位（海の高さ）は観測史上最も高い5.31mを記録し、海岸堤防の高さ（4.8m）を大きく上回りました。

港区では特に高潮による被害が大きく、宝神地区や南陽地区では堤防が決壊し、その他の地区でも堤防をこえて高潮が浸入しました。港区では全域が水に浸かり、20日以上水没することとなりました。ポンプによる排水などで、港区から完全に水が排水されるまでには79日かかりました。また、人的被害や家屋の被害以外にも、当時米どころであった南陽町一帯が浸水、収穫ができなくなるなど、農業関係の被害も甚大でした。

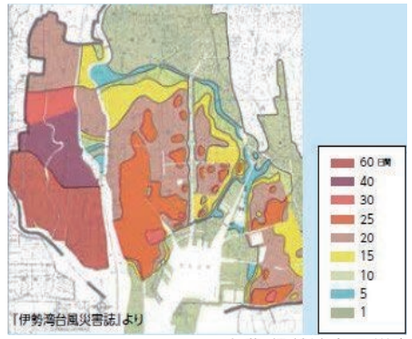
惟信町付近

魁町付近

南陽町福田の民家

南陽小茶屋分校

伊勢湾台風の浸水日数



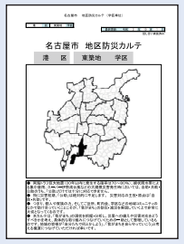
出典:伊勢湾台風災害誌

伊勢湾台風による被害

発生した日	港　区	名古屋市
死者・行方不明者	375名	1,851名
負傷者	10,394名	40,528名
全半壊流出家屋	16,723戸	50,972戸
浸水家屋	3,746戸	67,352戸

地域の防災力向上の取り組み

学区ごとの情報をまとめた「地区防災カルテ」を利用した地域防災力向上の取り組みを進めています。



防災訓練を通じて、地域におけるとなり近所の住民同士での安否確認や、避難行動要支援者への対応を含めた体制づくりを支援しています。

発災時に、避難所で被災者が、少しでも健康に過ごすことができるよう「こころとからだの健康」や衛生環境に配慮できるよう支援する災害時の健康サポーターを養成しています。

詳しくはコチラ

港区防災啓発イベント

港区が過去に経験した災害の記憶を風化させないよう、防災講演会を実施し、災害への備えを学ぶ機会を設けています。

2 南海トラフ地震と港区

［地震］

30年以内に起こる確率が70～80%といわれている巨大地震。

伊勢湾に面している港区では、震度6強～7の強い揺れや津波・液状化により大きな被害が出ると予測されています。

地震から命を守るためには、まずは、家具等の転倒防止対策に取り組みましょう。

港区で予想される地震
（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの被害想定）

死者数	最大2,200人
建物全壊・焼失棟数	最大9,200棟

外国人の方が多く住んでいます

港区は、市内16区のなかでも特に外国人の方が多く住んでいます。港区在住の外国人の方も災害時への備えができるよう「地震と津波」を作成し、支援しています。

詳しくはコチラ

子育て世代の防災教育に力を入れています

妊婦の方や乳幼児を持つ家族が日頃より備えができるよう「みんなと学ぼうさいBOOK」を配布しています。

詳しくはコチラ